



梓川の
世帯数・人口

世帯数	4,821戸
人口	12,249人
男	6,067人
女	6,182人

(令和5年9.1現在)



梓川 御浜 友情の輪

8月2日から4日までの3日間、梓川小学校5・6年生の児童8人が御浜町を訪れ、御浜町の児童と交流を深めました。

新型コロナウイルスの影響で4年ぶりの開催となったこの交流会は、平成6年に始まり毎年相互に小学生が行き来してきました。

感想文から抜粋

「最初は少し緊張したけれど、1日目のおはしづくりの時に、御浜の子たちと色々な話をして仲良くなりました。たくさんさんの友だちができて、文通をする約束をして別れたけれど、また皆と会えたらうれしいです」



▲対面式の様子

「2日目は太地くじら博物館にいった、クジラショーやエサを持っていくだけでクジラが寄ってきてかわいかった。

紀南果樹研究室では青いミカンとハウスミカンの食べ比べをしたり、糖度を測ったりしました。この交流会で色々なことを学ぶことができました」

「3日目は熊野灘が一望できる鬼ヶ城に登りました。梓川では見られない海の景色が広



▲紀南果樹研究室にて



▲御浜町の子どもたちと



▲海洋水族館 水中トンネル

地元で活躍する サッカーチーム

梓川地域で小学生主体に活動するサッカーチームの梓川FCを紹介いたします。

1974年に設立されたサッカーチームで、サッカー教室を経て現在はクラブチームとして活動しています。

そんな梓川FCの直近10年の最高成績は2017年の長野県3位で、昨年も長野県ベスト16という好成績でした。

今回は梓川FC代表代行の福嶋監督と、谷亮佑さん(6年生チームキャプテン)にインタビューをしました。

谷亮佑キャプテンは「梓川FCのトップチームのキャプテンとして、他の選手たちの見本、目標となれるよう練習・試合に全力で取り組んでいきたい」と抱負を語ってくれました。

福嶋監督は「私たち梓川FCは梓川地域の選手を中心に設立されたサッカーチームで、現在53人の選手が所属しています。経験は問わずサッカーがやりたい子、好きな子は入団が可能です。サッカーを通じて基礎的な体力・体作り、また仲間との協力やコミュニケーション力、サッカーに



梓川FCの皆さん

携わる全ての方への敬意など、技術面以外にも選手の成長になる指導を心がけています。この地域からプロのサッカー選手が誕生する日を目標に、我々指導者も奮起しております」と話してくれました。

興味がある方は左記連絡先に問い合わせをください。

☎080-5143-6228

mail:z-fc.fukushima

@way.ocn.ne.jp

丸田夏まつり

丸田町会では新型コロナウイルス感染症蔓延防止のため3年間開催を中止していた「丸田夏まつり2023」を開催しました。

この行事は、送り火流し、子ども花火大会、納涼祭の3部構成になっており、120人が参加し盛大に開催されました。

送り火流しでは、子ども一般併せて25隻の送り火を流しました。この送り火は、小中学生が高齢者クラブの皆さんに教わりながら一時間以上かけた力作で、子どもたちも流す日を楽しみにしていました。

続いて子ども花火大会、納



▲舟作りを教わる小中学生たち

涼祭が行われました。一時間半という短い時間でしたが、用意した料理はすべて食べられ、楽しそうな話し声が公民館に響いていました。

岩原町会長は「世代を超えての交流を図り、明るい町会を目指していきたい」と話していました。

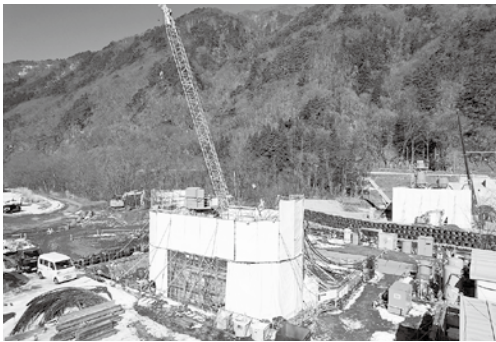


▲納涼祭の金魚すくい

新しい橋建設中

八景山から対岸の波田地区に通じる橋の建設が進んでいます。梓川地区と安曇地区を結ぶ県道は、平成25年に発生した大規模岩盤崩落により通行止めが続いています。生活道路を失った地域住民にとっては待望の工事です。

長野県松本建設事務所担当者「岩盤崩落の危険箇所を避けるため、梓川に橋を架けるパイパスを整備している。国道158号の付替え工事と橋脚2基の建設に着工したが、渇水期の工事となるため橋の完成にはまだ4年から5年かかる」と説明をしてくれまし



▲建設中の橋脚 (松本建設事務所提供)



▲八景山地区の看板

建設予定地を訪ねると河川中央に大きな橋脚が姿を見せていて、完成イメージが想像できる状態まで建設が進んでいました。今後は交通量の増加が予想され、通学児童などへの安全にはより一層の配慮が求められますが、一日も早い完成が待ち遠しい限りです。

梓川駐在所の頼もしい仲間たち

梓川駐在所連絡協議会前会長の福嶋弘さん(横沢)に上條松本警察署長から感謝状が贈呈されました。この協議会は平成25年2月に発足し、現在11人の会員が梓川駐在所の美化や広報・啓発活動などに協力しています。

福嶋さんは協議会の発足から令和4年度まで会長を10年間務めたほか、旧梓川村の交通安全協会梓川支部長や少年友の会員として地域の交通安全や青少年の非行防止に尽力してきました。

協議会の皆さんに祝福されて「会員と気持ちを一体にして活動してきた。これからも活動に協力していきたい」と笑顔で話してくれました。



▲贈呈後、協議会の皆さんと

雑記帳

ツバメは昔から害虫を食べ、て農作物を守ってくれる益鳥として、ヒナを守るために人の出入りが多い家の軒先に巣を作るので商売繁盛の象徴として大切にされ、幸運の象徴や縁起が良いとされてきた。松本市では一般によく見るツバメに加えイワツバメが生息しているようだ。

ツバメは渡り鳥で春に東南アジアから海を超えヒナのエサになる虫が豊富な日本に渡り、夏にかけて巣を作り子育てをする。環境があれば2回以上繁殖することもあるそうだ。独り立ちした若鳥は寒くなる秋口に旅立ち、冬の間はエサが豊富な東南アジアで来年の春に向けて体力を養うのだ。

カラスなどの天敵も多く、自然環境の中では平均して2、3年の寿命となるツバメ。短い生涯の中で見られる愛くるしいヒナの様子や何度もヒナにエサを届ける親鳥の献身的な姿にいつの時代も応援したくなる存在であり、我々も見習うべき姿である。

